

# 2月号

《あかりの里たより》

< H21年2月 1日発行 45版 > 荒川区東日暮里2-48-1 TEL5604-3977

## 季節の発見.

素盞雄神社には富士山信仰による「富士塚」4Mがあります。  
また節分祭もたくさんの人出があります。



## ご近所の話

### 日暮里の地名はどこから来た？

西日暮里の諏方神社の節分祭には、松本社中が江戸里神楽(国指定重要無形民俗文化財)の「鬼やらい」を奉納する。

昔はどこの家でも、節分の日には鰯の頭を付けた柵の枝の飾りを門・裏口・蔵の入り口に挿した。ギザギザの刺がある葉っぱと鰯の臭いが、病気などの災いを寄せ付けない。

ここ諏訪台からは遠く筑波山や隅田川などが見え、江戸時代から景勝の地として知られていた。この一帯は当時「新堀(にっぽり)」でしたが、

日が暮れるまでも飽きない「日ぐらしの里」と呼ばれたことから、「日暮里」となった。



八月の大祭

元久二年(1205年)の創立で、豊島左衛門尉経泰が勧請。文安年間に太田道灌神領を寄進し、徳川時代神領を賜わり、寛永十二年社殿を現在の地に御遷座し、明治になり日暮里・谷中の総鎮守の神社として名高く、八月の大祭には百軒近く露店が並ぶ。